

# 大阪薬科大学 同窓会報

第 45 号  
1993年 8 月 22日発行

編集・発行  
大阪薬科大学同窓会  
会長 梶川 益美  
広報委員会

## 21世紀、高槻キャンパスへ



いま“高槻キャンパス”はグラウンドづくり  
(平成 5 年 7 月撮影)

### 主 な 目 次

母校愛に燃えて大役を……………梶川 益美… 2	小澤 貢先生を偲んで……………11
大学の高槻移転は大事業……………大村栄之助… 3	母校推薦入試について……………12
大学は自己評価の時代へ……………久保田晴寿… 4	平成 5 年 3 月卒業生就職・進路状況……………14
平成 5 年度総会開く…………… 5	第 11 回公開教育講座……………16
新役員の紹介…………… 8	会費納入のお願い……………20



## 母校愛に燃えて大役を

会 長 梶 川 益 美

(一期生)

このたび、平成5年度同窓会総会において、  
図らずも同窓会長に選出されまして、その責任  
の重大さを痛感しております。

以前に会長をさせて頂いた時から、久しい間  
大阪を離れておりました関係上、会の運営に  
は、素人同然でございますが、選ばれました以  
上は、会の幹事の方々の後援を得て、全力を傾  
注して同窓会の発展のため尽力いたしたいと存  
じます。

前会長の曾根先生には、16年にわたる会長職  
をお引受け下さり、同窓会のために、多大の貢  
献をされました。そのご努力に対し敬意を表し  
ますと共に、心からお礼を申し上げる次第であ  
ります。

本当に有難うございました。又、併せて副会  
長並びに幹事の皆様のご尽力に対しても、お礼  
申し上げます。

さて、日本の経済界は、大変な不況に遭遇し  
ている現状であります。特に今回の不況は、従  
来の循環的な不況に加え、バブルの崩壊と、金  
融不祥事が加わった「複合不況」とまで言われ  
ておりましたがどうやら1～3月期で、その  
底を打ち、景気の転換期を迎えようとしていま  
す。

我が母校も、大学のキャンパスの移転問題  
を、このバブルの崩壊の余波を受け、現在の  
学舎敷地の売却が思うにまかせず、その計画

遂行上、問題があると聞き及んでおります。こ  
のような時こそ、我々同窓会全員が母校愛に燃  
えて、その移転成就に向かって全幅のお手伝を  
させて頂くべきであると考えております。

同窓会の運営の目的は、会員相互の親睦と福  
祉を図ることであることは論をまちませんが、  
折角の約1万1千余名にのほる会員を擁する当  
会としましては、会員相互の研鑽や、情報交換  
を更に充実させて、同窓会としての意義ある運  
営を図りたいと存じております。

何分にも、今回の会長就任は、私にとって突  
然のことでもあり、会運営について、特別な理  
念まで持ち合わせてはおりませんが、偉大な先  
輩の前会長のご計画、ご意志を尊重して、会  
の運営を心掛け、その中から新しい道を模索し  
て参りたいと存じます。

就任早々ではありましたが、先般、常任幹事  
の人達を選任願い、別記の通り、夫々の担当部  
署を決めさせて頂き、又、平成5年度の事業活  
動の具体的内容とスケジュールを決定させて頂  
きました。

今後は、まず、大学と在学生に対し、我々が  
何が出来るかを考え、その後、我々同窓会会員  
のためにお役に立つ方針を打ち出して参りたい  
と考えておりますので、皆様方のご協力とご後  
援の程をよろしく申し上げます。

(平成5年7月10日記)



# 大学の高槻移転は大事業

理事長 大村 栄之助

同窓会の皆様、ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

この度、本学の話題となっている高槻市への移転問題について、ご説明致します。

昭和7年に建設された現松原キャンパスの狭隘と、老朽化のため、10年来、新しい薬学の教育、研究に適した環境と広さのある土地を求めてきました。

たまたま、平成3年、住宅都市整備公団と高槻市が文教地区予定地として開発中であった高槻阿武山団地に適当な候補地のあることを知り、関係方面との交渉を行ってきた結果、平成4年3月末、約1万8千坪の土地の購入契約を致しました。

高槻市は交通の要地でもあり、文教の地として近くに大阪医科大学、関西大学（高槻新学舎現在工事中）、平安女学院短期大学などの大学があり、また、本学と極めて近い関連のある研究所として住友化学、サントリー、小野薬品、JT（日本タバコ）、サンスター、第一製薬（工場）などがあり、将来、何かと本学の発展のために好適地と判断されます。

60余年住み慣れた高見の里には愛惜の情を禁じえないものがありますが、四囲の諸状況を勘察した結果、将来の発展のため、大阪薬科大学100年の大計を慮り、思いきって移転に踏みきった次第です。

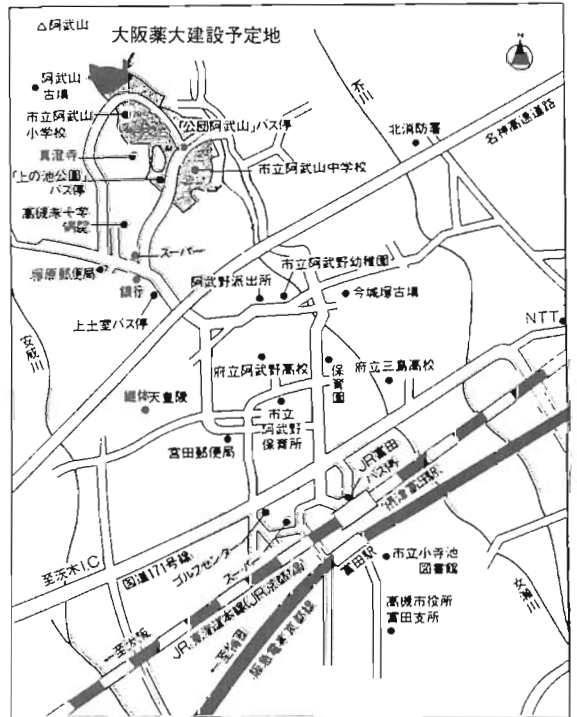
平成6年は創立90周年に当たり、同窓会も含め全学挙げて記念式典をしたいと存じます。理事会としては、まず第一に創立90周年事業として全力をあげて新キャンパス建設計画委員会の推進と、同窓会を中心に、学内外を含めての大

阪薬科大学後援会の設立に全力をあげたいと考えています。

大学の移転は大事業です。

時あたかも、バブルの崩壊で諸般の情勢は予断を許さない状況ではありますが、出来れば早急に移転の時期を設定し、諸般の準備を進めたいと思っています。どうか同窓会の皆様の絶大のご支援をお願い致します。

## 新キャンパス建設予定地



JR摂津富田・阪急富田駅より北へ車で約15分



# 大学は自己評価の時代へ

学 長 久 保 田 晴 寿

同窓会の皆様には、日ごろから母校の発展のために温かいご支援を賜り、ありがたく感謝いたしております。

さて、わが国の18歳人口は昨年205万人のピークに達しましたが、本年から急激に減少し、大学にとって厳しい冬の時代に突入しております。大学設置基準の改正もあって、大学は国公立を問わずカリキュラムの改正や自己点検、自己評価を迫られ、懸命の努力をいたしております。

大学の改革は入試改革からといわれます。本学においても意欲のある優れた学生を獲得するために入試改革が必要であるという結論に達し、その一環として本年度から推薦入学制度を導入いたしました。その結果、78名の本学で薬学を学ぶ目的意識の明確な学生を選ぶことができました。

さらに昨年10月には、日本薬剤師研修センターの共催を得て、薬剤師のリフレッシュ教育に

寄与する目的で、開局または病院勤務薬剤師を対象にして、「新しい医療とこれからの薬剤師」のテーマで公開教育講座を開講いたしました。これは、西は長崎大学から東は東京薬科大学まで、国公立15薬科大学の卒業生約80名の参加を得て大成功でした。この試みは本学が最初で注目されましたが、今年も昨年同様実施いたします。より多くの本学の同窓生のご参加を期待いたしておりますので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

つぎに、大学院の入学者を約30名に増やすことができました。大学院の充実は大学の評価につながりますので、来年度から教員組織、設備施設を充実して、定員増を確実にしたいと思っております。

終わりに、本学は今後も個性的な魅力ある大学をめざして、なお一層の努力をいたす覚悟でございますので、皆様のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

母校で第11回公開教育講座が開かれます 会員の皆様もぜひご参加を

- 第1日 1993年10月16日(土) 午後1時10分～5時00分
- 第2日 1993年10月23日(土) 午後1時20分～5時00分
- 第3日 1993年10月30日(土) 午後1時20分～5時10分

詳細は P.16 ～ 18 をご覧ください

# 平成5年度総会開く

5月15日 薬業年金会館



長い間、ご苦勞様でした  
前会長の曾根節子氏（S22）

## 新会長に梶川氏（S29）

会長 梶川 益美（S29）  
副会長 高橋 市子（S23）  
栗田 稔（S34）  
有田 浩和（S44）  
監事 前田 静子（S14）  
松谷 俊彦（S32）

さる5月15日、大阪薬業年金会館において、平成5年度総会が開催されました。

当日は例年になく多数の会員の出席を得て、高橋市子（S23）氏司会のもと、議長に栗田 稔（S34）氏を選出し、議事を進行しました。

平成4年度会務報告、平成4年度決算報告および平成5年度事業計画（案）、収支予算（案）が報告・審議され、満場一致で可決承認されました。

続いて、会長、副会長、監事の選出に入り、同窓会役員として、次の6名が新しく選出されました。

休憩の後、松谷俊彦（S32）氏による講演があり、最近特に関心の高い「C型肝炎について」、最新の診断、治療、感染経路、研究動向等についてかなり詳しく、スライドを用いて説明され、会員各位にとって大変お役に立ったことと思われます。

今年の懇親会は、城戸佐知子（S34）氏の司会でオープニング。例年以上に盛大なパーティーとなり、大橋一則（S34）氏の乾杯のご発声のあと、会員相互のなごやかなパーティーが続きました。

途中、新役員、評議員の紹介があり、新しい門出にふさわしい懇親会でした。



## 平成5年度総会

松谷俊彦氏（S32）が  
「C型肝炎について」講演





新会長の梶川氏を中心に、新役員の紹介

## 盛大な懇親宴



## 平成5年度事業計画

### 1. 財務関係

- (1) 大学移転に伴う資金調達、準備について
- (2) 同窓会の会計処理のコンピュータ化について  
実行期日 平成5年8月末日
- (3) 同窓会基金による在学生への奨学資金提供について  
実行期日 平成6年4月より
- (4) 同窓会年会費の納入促進（特に大学卒業生）について
- (5) その他

### 2. 広報関係

- (1) '93・3版名簿発行について  
実行期日 平成5年9月末日
- (2) '93・3版第1回追補訂正版発行について
- (3) 会報発行（45号）について 実行期日 平成5年8

月末日

(4) その他

### 3. 庶務関係

- (1) 事務のコンピュータ化について
- (2) 曾根前会長への感謝状と感謝の品贈呈について
- (3) 同窓会会員の交流事業の促進について
  - ① 卒後教育講座への積極的参加（10月16日・23日・30日）
  - ② 日本薬剤師会における同窓懇親会開催（11月6日）於 北九州市
  - ③ 新年会の開催（平成6年1月22日）
  - ④ 平成6年度同窓会総会の開催（平成6年5月14日）
  - ⑤ 新入会員記念品贈呈（平成6年3月）
  - ⑥ 支部の育成について
  - ⑦ 各種研究会について  
（6月26日 第1回役員会にて承認）

# 新 役 員 の 紹 介

どうぞ  
よろしく



梶川 会長



高橋副会長

## 役員・監事・常任幹事

会 長	梶 川 益 美	S29
副 会 長	高 橋 市 子	S23
	粟 田 稔	S34
	有 田 浩 和	S44
常任幹事	美 並 アキノ	S7
	山 中 迪 子	S8
	岩 井 伯 江	S12
	竹 村 喜 示 子	S16
	大 西 百 合 子	S18
	三 輪 谷 文 子	S23
	早 川 慶 子	S24
	上 原 サ ト	S27
	遠 田 智 子	S32
	城 戸 佐 知 子	S34
	片 岡 猛	S37
	福 家 清 美	S38
	中 元 安 雄	S40
	松 本 初 枝	S44
	三 野 芳 紀	S47
	田 原 耕 二	S47
	西 野 隆 雄	S48
	土 井 光 暢	S56
監 事	前 田 静 子	S14
	松 谷 俊 彦	S32
相 談 役	樽 谷 種 三 郎	D



粟田副会長



有田副会長

## 支 部 長

関東支部	小 原 義 行	S29
愛知支部	鳥 居 龍 治	S34
滋賀支部	吉 川 貞 江	S6
京都支部	中 島 一 郎	S41
和歌山支部	松 浦 清	S27
奈良支部	美 並 アキノ	S7
兵庫支部	笹 部 幸 作	S31
(幹事)	堅 田 義 次	S45
岡山支部	大 田 貞 代	S5
広島支部	石 井 健 一 郎	S33
山口支部	塩 屋 ヌ イ 子	S13
鳥取支部	小 林 喜 美 子	S3
香川支部	三 好 孝 一	S27
高知支部	南 カズ子	S10
福岡佐賀支部	豊 福 利 治	S27



# 学 年 幹 事

会員は結婚、転居、就職、物故等の異動が生じた場合には、必ず学年幹事までご連絡下さい。

D男 樽谷種三郎  
 〃 佐藤 一郎  
 D女 吉村イサノ  
 S 4 田中 ひな  
 〃 桑原 光子  
 S 5 望月 文子  
 〃 森川チエノ  
 S 6 水谷 文  
 S 7 刀祢 浜子  
 〃 美並アキノ  
 S 8 松本 信子  
 〃 山中 迪子  
 〃 西 ソノ  
 S 9 奥野 括子  
 S10 久下 綾子  
 〃 和田千代子  
 〃 宮崎 文子  
 S11 岩間 昌子  
 〃 小野 麗子  
 〃 中谷 節子  
 〃 横山 マサ  
 S12 岩井 伯江  
 〃 上西 和子  
 〃 坂口美佐子  
 〃 森田 登美  
 S13 仲本 静  
 〃 佐々木露子  
 〃 藤井 秀子  
 〃 高田美代子  
 S14 前田 静子  
 〃 吉本ヒサ子  
 S15 小川 マツ  
 〃 田村 和子  
 〃 片岡 和子  
 〃 山村 良子  
 S16/3 磯崎 敏子  
 〃 福田 幸子  
 〃 三輪 敏子  
 〃 嶋田 光子  
 S16/12 亀井 佳子  
 〃 中坂 茂子  
 S17 新美 綾子  
 〃 杉浦美代子  
 〃 高田 侑枝  
 S18 大西百合子  
 〃 田村 栄子  
 〃 中川千鶴子  
 〃 林 和

S19 原 央子  
 〃 柿本 ふく  
 〃 松崎 信子  
 S20 有馬 房子  
 〃 下条美和子  
 〃 吉田 暉  
 〃 全徳 信子  
 S21 石野 俊子  
 〃 吉田喜久子  
 〃 今村 礼子  
 〃 山城ツル子  
 S22 甲川須美子  
 〃 曾根 節子  
 〃 保井 俊子  
 S23 高橋 市子  
 〃 橘 布佐子  
 〃 三輪谷文子  
 S24 堀口 充  
 〃 早川 慶子  
 〃 豊原美弥子  
 S25 細野百々子  
 〃 波部 千代  
 〃 篠田 督子  
 S26 滝野美紗子  
 〃 松倉 幸  
 〃 島津 多美  
 S27 上原 サト  
 〃 中澤 弘行  
 〃 藤原 幹夫  
 〃 上西 恵子  
 S29 斎藤 隆子  
 〃 塚本 常明  
 S30 滝 英男  
 〃 林 寿美  
 〃 増井 豊  
 〃 中野喜久子  
 S31 浅田 真吾  
 〃 澤木 茂  
 S32 松谷 俊彦  
 〃 遠田 智子  
 S33 岩井 孝明  
 〃 中村 幸治  
 〃 藤沢 友子  
 〃 谷 暢子  
 S34 城戸佐知子  
 〃 陶山 久子  
 〃 粟田 稔  
 〃 大橋 一則  
 S35 石本 巖  
 〃 前田 龍三  
 〃 菊地 礼子  
 S36 油野奈那子  
 〃 清原 祥恵  
 〃 山田 明男  
 S37 片岡 猛

S37 前田久寿雄  
 〃 中川 百合  
 〃 大野 治代  
 S38 巽 基悦  
 〃 鈴木 保吉  
 〃 東口 量子  
 〃 福家 清美  
 S39 赤木 昌夫  
 〃 木村捷二郎  
 〃 喜多村義彦  
 〃 岩本紀美子  
 S40 中元 安雄  
 S41 田中 政子  
 〃 木村 淳子  
 S42 中山 学  
 S43 馬場きみ江  
 S44 有田 浩和  
 〃 資延 政美  
 〃 石田 寿昌  
 〃 松本 初枝  
 S45 安田 正秀  
 〃 有本 恵子  
 〃 太田 恵子  
 〃 武枝 敏之  
 S46 安田 一雄  
 〃 山田佳代子  
 〃 西 美紀子  
 〃 織田 美夫  
 S47 三野 芳紀  
 〃 田原 耕二  
 S48 森本 一洋  
 〃 西野 隆雄  
 S49 川田 貢  
 S50 中井 広次  
 S51 古浜 俊成  
 〃 林 康彦  
 S52 杉本 真理  
 S54 田中 清一  
 〃 森 博孝  
 S55 島崎 源二  
 S56 土井 光暢  
 〃 上嶋 孝博  
 S57 橘 敦彦  
 〃 中島 淳二  
 S60 佐藤 孝  
 〃 三宅 義昭  
 〃 熊本 知子  
 S61 岡 雅仁  
 S62 吉村由香里  
 〃 谷口 雅彦  
 S63 坂口 芳郎  
 〃 国沢日出夫  
 H 1 堀 雄一郎  
 〃 小西 弘之

# 母校だより



## 母校教授 小澤 貢先生ご逝去

母校第二生薬学教授 小澤 貢先生には、かねてより病氣療養中のところ、5月31日、大阪市阿倍野区の病院でご逝去されました（享年56歳）。

去る7月10日、母校において追悼式が行われ、同窓会より高橋、粟田、有田副会長が参列しました。

先生のご遺徳を偲び謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 大学人事異動

併 任（平成5年4月1日）  
教務部長 千熊 正彦（教授）  
研究委員長 玄番 宗一（教授）  
経理課長 河野 光次（事務局長）  
施設課長 森本 武司（事務局次長）  
（平成5年6月16日）  
学生部長 森 逸男（教授）  
昇 任（平成5年4月1日）  
助 教 授 黒田 和道（第二微生物学教室）  
助 教 授 大桃 善朗（第一放射薬品学教室）  
助 手 山沖 留美（第二放射薬品学教室）  
事務局次長 森本 武司（施設課長）  
係 長 古本 浩三（庶務課）  
主 任 澤田あつ子（学生課）  
採 用（平成5年4月1日）  
助 手 当麻 成人（保健体育）  
副 手 芝野真喜雄（第一生薬学教室）  
保 健 婦 辻 悦子（学生課）  
（平成5年4月20日）  
事務職員 高山 和美（経理課）  
配 置 換（平成5年4月1日）  
吉村由香里（第一薬剤学教室・化学Ⅱより）  
福永 治久（教務課係長・施設課係長より）

藤田 純生（学生課係長・庶務課係長より）  
松尾 真充（施設課係長・教務課係長より）  
嘱 託（平成5年4月1日）  
井上 正敏（教授）  
森下 利明（教授）  
神田 吉秋（図書課事務職員）  
山田 敏子（経理課事務職員）  
川西 茂（守衛）  
退 任（平成5年3月31日）  
田中 千秋教授・教務部長（任期満了につき）  
石田 寿昌教授・研究委員長（任期満了につき）  
（平成5年6月15日）  
稲森 善彦教授・学生部長（任期満了につき）  
定年退職（平成5年3月31日）  
森下 利明教授（倫理学）  
川西 茂（守衛）  
退 職（平成5年2月28日）  
福井美有紀助手（第一薬剤学教室）  
（平成5年3月13日）  
宮原 直子助手（第一放射薬品学教室）  
（平成5年3月19日）  
近藤由貴代助手（第二薬化学教室）  
（平成5年3月31日）  
阿部 真弓助手（第一生薬学教室）  
山本英倫子助手（第二生化学教室）  
河鱈 一彦助手（保健体育）  
（平成5年5月6日）  
神田 公子（用務員）  
解 嘱（平成5年3月31日）  
曾根 節子助教授（化学Ⅱ）  
藤井 司郎（経理課長）  
（平成5年5月6日）  
神田 吉秋（図書課事務職員）  
海外出張  
辻坊 裕助教授（第一微生物学教室）  
<出張期間：平成5年5月9日～5月14日>  
イタリア・アンコナで開催される  
International Symposium on CHITIN ENZYMO-  
LOGY における研究発表





## 小澤 貢先生を偲んで

第二生薬学教室代表 馬 場 き み 江

故小澤 貢先生に最後のお別れの言葉を述べなければならぬことは、私にとって全く痛恨の極みでございます。先生との初めての出会いは、私が本学を卒業し助手に採用された昭和43年4月、京都大学から助教として赴任された時です。それ以来25年に渡り、公私とも本当にお世話になりました。植物化学に興味があり助手に残ったものの、まだなにも判らなかった私を今日まで教育、ご指導いただきました。大学にずっと残って、研究を続けるためには、学位が無くてはだめだと、京都大学の井上博之先生のもとに、ご紹介下さったのも先生です。上司が部下の面倒をみて、一人前に教育するのは当たり前のごとで、部下は上司を乗り越えて行かなければいけないよ、と言われるのが口癖でした。几帳面よく整理され、実験データなどもいい加減なものでは絶対に許されず、外部からのサンプルやチャートの請求には、自信を持って提出できることをいつも心がけるようにと諭されました。また、教室卒業生を大事にされ、その集まりである「香豆会」への出席をいつも楽しみにされていました。その会も先生がご病気になられてからは、しばらく途絶えています。また先生は自然を大変愛され、植物を始めとして、あらゆる生きものに造形が深く、その名前、習性などもよくご存じでした。ご家庭ではエビネをはじめ多くの東洋ランの栽培をされ、リスや犬や鯉を家族同様、大切に飼われていました。温厚で、ゆったりとした、人間味あふれたご性格はこのように自然や、生きものを愛する心から滲みでていたように思います。また太田先生の後を引き継ぎ、園長として薬用植物園の運営にも熱心に取りくまれ、消えてゆく薬用植物を確保し、薬用植物園を意義ある形で保つことが今後の薬大の使命の一つであると力説されていました。研究室で従来から行なっているセリ科植物に加え、マメ科、ジンチョウゲ科植物成分の研究および、それらの生理活性に関する研究が軌道に乗り始めており、先生は其中でも特に抗エイズ薬の開発には特に関心を持たれ

ていました。今も阿倍野橋あたりを通っていると入院されていた市大病院の大きな建物が見え、あそこに行けば先生に逢うような気がしてなりません。私達は、偉大な師を失いましたが、この悲しみを乗り越えて先生のご遺志を引継ぎ、微力ながら頑張っけてゆく所存です。先生、長い間本当に有難うございました。どうぞ安らかに眠り下さい。これをもって先生との最後のお別れの言葉と致します。

### 国試結果は79.26%に

今年の本学卒業生の国家試験結果は79・26%で、全国平均の89・23%よりも約10%低く、下から二番目の成績であった。国公立の平均よりも約10%ほど高いが、来年の奮起を望みたい。

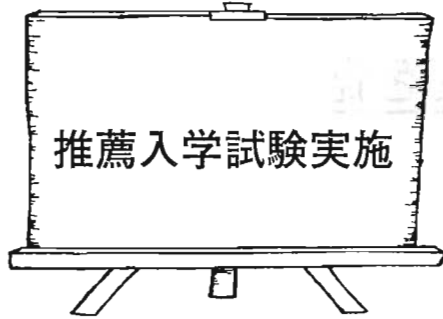
#### 第78回 薬剤師国家試験結果

試験期日：平成5年4月2日(金)～3日(土)

合格発表：平成5年4月27日(火)

区分	受験者	合格者	合格率
新 卒	299	237	79.26
	6,906	6,162	89.23
そ の 他	101	65	64.36
	2,358	1,421	60.26
総 数	400	302	75.50
	9,264	7,583	81.85

新卒とは平成5年3月19日卒業者である。各区分の上段は本学、下段は私立薬系大学(29)のデータである。



## 78名が合格 (受験者 203名)

平成5年度入学試験から、従来の一般入学試験に加えて新たに推薦入学試験が実施されました。この入学試験制度の改革は、薬学を修めた後、医療・衛生・環境問題などを通じて社会に貢献しようという、確たる目的意識と意欲をもった学生を多く集める目的で行われました。本年4月に、第44期生として推薦入試（募集人員70名、受験生203名）により合格した78名（男子18名、女子60名）が入学いたしました。

ご参考までに、平成6年度推薦入学試験要項の概要は次に示す通りです。

### 1. 入学定員・募集人員

	入学定員	募集人員
薬学部 (男女共学)	薬学科 120名	約 40名
	製薬学科 120名	約 40名
	計 240名	約 80名

### 2. 出願資格

薬学を意欲的に勉強する意志を有し、本学への入学を強く希望する者で、下記のすべての条件を満たす者

- ① 高等学校を平成6年3月卒業見込みの者
- ② 出身高等学校長が推薦する者（1校につき推薦者1～2名とし、共学校で推薦者2名の場合は男女各1名の推薦とする）
- ③ 高等学校3年1学期までの学習成績の評定平均値の平均が3.7以上の者
- ④ 推薦入学試験に合格した場合、必ず入学する意志のある者（推薦入学試験に合格し、入学を辞退する者があった場合には、次年度以降当該高等学校から

の推薦を受けないことがある）

- ⑤ 薬学の学習に支障を来さない心身ともに健康な者

### 3. 出願期間

平成5年10月22日(金)から平成5年11月5日(金)まで（締切日必着）

### 4. 入学試験

- ① 日 時 平成5年11月14日(日)午前10時
- ② 学力検査 外国語(英語)・小論文
- ③ 時間割

科目等	時 間
外国語※	10:20～11:50 (90分)
小論文	13:00～14:30 (90分)

※外国語の解答用紙の一部はマークシート式である。

- ④ 試験内容および過去の入試データに関する問い合わせには一切応じない。

### 5. 選抜方法

- ① 学力検査（「外国語」・「小論文」）の成績、調査書および推薦書をもとに入学志願者の能力、適性等を総合して合格者を決定する。
- ② 入学許可後であっても調査書、推薦者の記載が事実と相違し、本学において就学不相当と認めた場合は入学を取り消すことがある。

\*入学試験に関する問い合わせ先：

大阪薬科大学教務課入試係 TEL 0723-32-0102

## 最初の推薦入試を終えて

### 推薦入試の位置づけ

教授

森 下 利 明

最近、文部省が中学校における業者テストの排除にかなり積極的な姿勢を示していることは、周知の通りである。いわゆる「偏差値」教育の誤りを是正し、教育の正常化をはかろうとする意図であることは言うまでもない。偏差値＝学力という学力観、ひいてはそのような教育観が定着して久しいが、このように教育そのものを歪めてきた原因は、中学から高校、高校から大学への一貫した受験体制にあることが早くから指摘されてきた。したがって高校のみならず大学の入試制度も同時に考え直さない限り、本当の効果は期待しがたいであろう。

私立大学における三科目入試制度は、現在も基本的には変わっていない。が、本入試に先立つ推薦入試制度を、今日殆どの私立大学が採用している。その意図は一様とはいえないが、基本的には従来の選抜方法ではえられないような優れた学生を集めたい、大学を活性化したい、という点においては考えを同じくするものといえよう。本学といえども決してその例外ではない。本学のごとき薬学の単科大学に、何の目的意識も持たず、ただ三科目の偏差値のみを拠り所として受験する如き学生が増えるようでは実際困るのである。

さて、それでは私たちは、推薦制によってどの様な学生を選ぼうとしているのか、という点に答えておかなければならない。言うまでもなく、入学試験とはすなわち学力試験の意であると一般に理解されてきた。一定水準の学力なしに、大学教育を受けることはまず不可能であろうからである。それでは学力とは何か。いま仮にそれを「学習によって得られた能力」と規定するならば、確かに偏差値がそれををはかる一指標にはなり得るであろう。私たちは学力を点数化することがあまりに日常的であるために、それになれ過ぎている嫌いがなくはない。だが、教育の本質は単に知識の注入にあるのではない。学び得た知識を応用し、更にはそこから新しいものを創造してゆく力を身につけさせるものでなければならない。しかしこれを点数化することが甚だむづかしいのである。

ところが、さらに重要な問題がもう一つ、その奥に隠されている。それはまさに、それらの原動力ともいえるべき、受験生の内心にある「意志」・「意欲」のことであり、ここに至ってはもはや点数化はまったく不

可能といわざるを得ない。意欲とは、積極的に何かをしようとする気持の意であり、一般にいう「ヤル気」のことであろう。意欲は学力よりも遥かに重要なものであると思う。学力はむしろ意欲によって培われるとさえ言い得る。人間は少・青年期に心の中で望み願っていたような人間に結局はなるものだ、という昔からの教えは、人間形成上にもつ意欲の重要性を示唆するものであろう。かくして、私たちは推薦制によってどの様な学生を選ぼうとしているのかが、自ずから明瞭となるのである。それは、薬学を学び、それを通じて社会に貢献しようという確固たる意志と、旺盛な意欲とをもった学生であると言うことに尽きるであろう。

以上の如く、私たちがこの度推薦入学制を採用することに決した背後には、意欲は点数化できないという前提があった筈である。尤も、現実には高校に学校差が存在するゆえに学力試験を併用せざるを得なかったが、推薦入学制の本来のあるべき姿から考えると、点数信仰からいかに脱却するかと言う事が、今後の我々に課せられた課題として残るのではないだろうか。

今、大学が危機的な状況の下にあると言う事は私は深刻に受け止めている。大学の自治を誇りとする大学人が、事もあろうに文部省によって「大学自らの責任において、教育水準の向上、教育内容の改善をはかれ」、などと自覚を促されるような事態に立ち至るとは何たる事か。では何が危機的なのか。一つは学生の側に、今一つは大学側の教育体制・教育内容に問題のあることを疑う人はいない。前者は入試改革という形で（推薦制もその一つ）解決を目指し、後者はいま大学の教育改革という形で解決をはかろうとしている。ただここでも指摘されるのは、後者に欠けているのもやはり意欲ではないかと言う事である。やむなく文部省が課した大学の自己点検・自己評価ということも、自分自身のものとして受け止めない限り、即ち自己を客観化して評価するというごとき厳しい視点を持たない限り、改革は一步も進まないのではないだろうか。

意欲を持って学ぶ学生と意欲を持って行う教育改革とは、車の両輪の如く何れを欠いてもならぬ。大阪薬大の命運は大学の移転と言う事においてではなく、一に両者の「意欲」如何にかかっていると云っても過言ではないと思うのである。

# 就職・進路状況

5年3月卒業生

## 不況の中で好成績。多様化が進み，MR関係への進出多数。

平成5年3月の卒業生は，TVや新聞紙上で報じられているように，かなりの企業が昨年度よりも採用者を減らしている状況ですが，本学は好成績を得ることができました。（表Ⅰ）

就職部長の栗原拓史教授のコメントです。

① ある程度予想されたことではあるが，薬業関連企業の研究，品管，学術，開発などへの女子学生のいわゆる内勤希望者数111名に対し，決定者は74名，率にして67%の女子学生の希望がかなえられたに過ぎなかった。企業の女子学生に対しての厳しさは相変わらずである。

② その結果，女子学生の病院等の医療機関への就職は当初の41名の希望者に対し58名もの決定者が出た。

昨今，医療機関からの求人は極めて多く，これでも求人確保に至らなかった病院が目についた。

③ 医薬情報担当者(MR)への希望者が男子39名，女子16名であったのが，最終決定者が男子35名に留まり，逆に女子は25名となった。この職種は今後，医者と製薬企業をつなぐかけ橋として，また医薬品の正しい情報の提供，伝達者として見直されつつある。

④ 求人企業数は昨年と大差なかったが，若干進路先への多様化が見られた。これ自体は好ましいことのように思える（表Ⅱ）。

⑤ 男子の公務員希望者が5名しかなかったにもかかわらず，大阪府2名を含む7名の決定者（男女合わせて18名）が出た。定員削減による激戦りの中にあつて，本学学生の底力をかいまみた思いである。



### 平成5年3月 卒業生進路

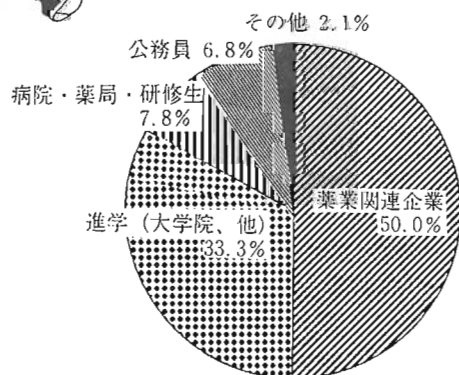


図1 男子（102名）

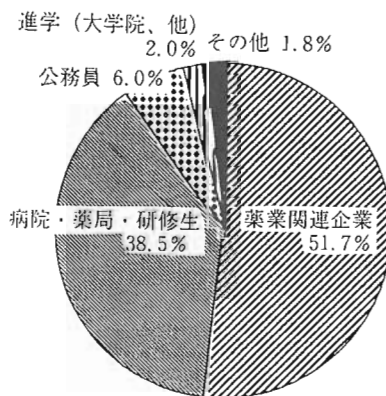


図2 女子（197名）



(表Ⅰ)

平成4年度就職・進学内定状況

(平成5年3月12日現在)

	男		女		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
薬業関連会社(営業)	35	34.3%	25	12.6%	60	20.0%
(研究・品質管理・学術・開発)	14	13.7	74	38.0	88	29.4
その他	3	2.0	3	1.5	5	2.0
薬局・卸	3	2.0	8	4	10	3.3
病院・診療所	4	3.9	58	29.4	62	20.7
研修生	1	1.0	10	5.0	11	3.6
公務員	7	6.8	11	5.5	18	6.0
進学(大学院, 他)	32	31.3	3	1.5	35	11.7
自家業	1	1.0	2	1.0	3	1.0
その他	2	2.0	2	1.0	4	1.3
就職活動中	2	2.0	1	0.5	3	1.0
計	102	100.0	197	100.0	299	100.0

(表Ⅱ)

主な就職内定先, 進学先

〔薬業関連企業・その他〕

尼崎化学合成, 天藤製薬, 伊藤忠ファインケミカル, エーザイ, 大阪エアゾール工業, 小野薬品工業, カイゲン, 片山化学工業研究所, 鐘淵化学工業, 協和発酵工業, クラブコスメチックス, グラクソ三共, 堺化学工業, サール薬品, 澤井製薬, 三栄化学工業, 三共, サンスター, 参天製薬, サンド薬品, 三宝化学研究所, 三和化学研究所, 剂盛堂薬品, 塩野義製薬, 消費経済研究所, 新日本薬品, 新和物産, 住友化学工業, 住友製薬, 千寿製薬, ゼネカ, ゼリア新薬工業, 大正製薬, 高砂化成, 武田分析研究所, 武田薬品工業, 田辺製薬, 第一製薬, 大同薬品工業, タイナボット, 大日本製薬, 大日本除虫菊, 大和化成, 中央微生物検査所, 中外製薬, トーアエイヨー, 東京田辺製薬, 東和薬品, 常盤薬品工業, ナカライテスク, ナリス化粧品, 日亜化学工業, ニチバン, ニッショウ, 日清製薬, 日本イーライリリー, 日本ウエルカム, 日本グラクソ, 日本シェーリング, 日本商事, 日本新薬, 日本製薬, 日本臓器製薬, 日本たばこ産業, 日本チバガイギー, 日本ベ

ーリンガーインゲルハイム, 日本コルマー, 日本メジフィックス, 日本薬品開発, 日本ロシュ, ノエビア, バイエル薬品, 萬有製薬, ビーブランドメディコデンタル, ピアス, 藤沢アストラ, 藤沢ファイソフズ, 藤沢薬品工業, 藤本製薬, 扶桑薬品工業, 丸石製薬, マンダム, 三國, 三井製薬工業, 三井東圧化学, ミドリ十字, 明治製菓, 持田製薬, 森下仁丹, 山之内製薬, 吉富製薬, 米山薬品工業, ロート製薬, 和光純薬工業大阪労働衛生総合センター, 松下産業衛生科学センター

〔マスコミ・出版〕

舞ランド, ワールド・インテリジェンス・ネットワーク

日本臨牀社

〔小売・薬局〕

育星会, ジャスコ, ダイエードラッグ, サンプラザ加地, ニチイ, マツモトキョシ

〔病院〕

愛仁会, 藍野病院, 藍野花園病院, 青山病院, 茨木病院, 宇治病院, 大澤病院, 海南病院, 葛城病院, 河内総合病院, 北九州総合病院, 近畿大学医学部附属病院, 近畿日本鉄道

(診療所), 錦秀会, 倉敷中央病院, 甲南病院, 神戸協同病院, 公立豊岡病院, 済家会, 西条中央病院, 西条病院, 島田病院, 城山病院, 総合加納病院, 武田病院, 中国労災病院, 寺岡整形外科病院, 天理よろづ相談所病院, 徳洲会, トヨタ記念病院, 土肥病院, 中林病院, 中村病院, 西の京病院, 西淀病院, 日生病院, 野上病院, ハマノ眼科, 牧岡病院, 広島赤十字・原爆病院, 藤井病院, 府中病院, ベルランド総合病院, 舞鶴赤十字病院, 松阪中央総合病院, 行岡病院, 淀井病院, 若草第一病院, 和歌山赤十字病院, 和歌山労災病院

〔公務員〕

国家公務員, 愛媛県, 大阪府, 滋賀県, 奈良県, 兵庫県, 尼崎市, 大阪市, 貝塚市, 西脇市, 広島市, 榛原町

〔大学院研修生・研究生〕

(大学院) 大阪大学, 大阪薬科大学, 岡山大学, 京都大学, 名古屋市立大学, 広島大学

(研修生) 大阪大学, 九州大学, 高知医科大学, 滋賀医科大学, 名古屋大学, 山口大学

(研究生) 大阪薬科大学

## 第11回公開教育講座の開催のお知らせと参加のお願い

盛夏の候、本学卒業生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、大阪薬科大学では地域の開局薬剤師、病院薬剤師、医療従事者などを対象に、毎年公開教育講座を開催しておりますが、本年度はその第11回目を迎えます。本年度の開講の主眼点は「薬剤師の生涯教育」とし、昨年に引き続き財団法人日本薬剤師研修センター、社団法人大阪府薬剤師会の御協力を得て、「新しい医療とこれからの薬剤師——その2」を主テーマに次の通り開催致します。

御承知の通り、医療をとりまく状況には近年著しい変革がおこっております。とりわけ我が国の薬剤師制度、薬剤師教育のありかたには根本的な見直しが求められております。このようなとき、私達大学人は学生への教育ばかりでなく卒業生に対してもその生涯教育に責任の一部を担うべきであると考えております。このため、私達は本講座を、近畿圏に限らずできる限り広い地域の、できる限り多くの薬剤師の生涯学習に役立てて頂きたいと願っております。

しかしながら、本学の過去10回の公開教育講座の状況を見ますと、本学卒業生の参加が必ずしもよくなかったように思われます。これは他大学の同様な公開講座と比べたとき極めて異なった点であり、早急に改善すべきと考えます。本講座を真に「薬剤師の生涯教育」の場としてさらに発展させるには、本学卒業生の積極的な参加と協力が不可欠と思われます。

私達自身も種々の方法で本講座の広報に努めて参ります。つきましては本学卒業生の皆様の本公開教育講座への積極的なご参加と、卒業生一人一人が本講座の広報をしていただきたくお願いする次第でございます。誠に勝手なお願いですが宜しくお願い申し上げます。

1993年7月10日

大阪薬科大学・教授  
公開教育講座委員会委員長

掛 見 正 郎



大阪薬科大学第11回公開教育講座

# 新しい医療とこれからの薬剤師(2)

主 催

大阪薬科大学

共 催

日本薬剤師研修センター

開催日時

- 第1日 1993年10月16日(土) 午後1時10分～5時00分  
第2日 1993年10月23日(土) 午後1時20分～5時00分  
第3日 1993年10月30日(土) 午後1時20分～5時10分

開催場所

大阪薬科大学 (近鉄南大阪線高見の里駅下車 徒歩7分)

受講要領

本講座を受講するには、「受講申込」が必要です。同封の申込用紙に御記入のうえ、下記までお送り下さい(電話およびFAXでも申し込みを受け付けます)。受講料はテキスト代を含む5,000円です。当日会場受付でお支払い下さい。なお、会場でも申込受付を行います。会場の都合により定員を300人とさせていただきます。定員になり次第締め切らせていただきますので、お早めの予約申込をお願い致します。

受講の特典

この公開教育講座を3日間とも受講された方には、大阪薬科大学から修了証をお渡しすると共に、薬剤師の方には日本薬剤師研修センターによる単位付与を予定しています。また大阪府薬剤師会から、1回の受講につき5単位の「薬剤師生涯教育受講証」を発行致します。詳細は公開教育講座委員会にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

〒580 大阪府松原市河合2-10-65

大阪薬科大学公開教育講座委員会

掛 見 正 郎

TEL 0723-32-1015 FAX 0723-32-9929

## 公開教育講座プログラム

10月16日(土)

13:10 第11回公開教育講座開講の挨拶

13:20～

厚生省薬務局企画課課長補佐

あ べ みち はる  
安 倍 道 治

演題 「薬務行政をめぐる最近の話題」

15:00 Coffee Break

15:20～

大阪市立大学医学部講師 (小児科学)

つか もと ゆ そ  
塚 本 祐 壮

演題 「アレルギー疾患と東西医学のアプローチ」

10月23日(土)

13:20～

富山医科薬科大学教授・附属病院薬剤部長

ほり こし いさむ  
堀 越 勇

演題 「オーダーリングシステムを利用した病院の医薬品管理」

15:00 Coffee Break

15:20～

大阪大学医学部講師 (第一内科)

かわ もり りゅう ぞう  
河 盛 隆 造

演題 「糖尿病の治療をめぐる」

10月30日(土)

13:20～

大阪薬科大学教授 (薬剤学)

かけ み まさ お  
掛 見 正 郎

演題 「薬効の速度論的な見方と最適投与計画」

15:00 Coffee Break

15:20～

帝京大学薬学部医薬情報室

ほり み ち こ  
堀 美 智 子

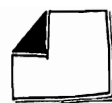
演題 「服薬指導と医薬情報」

17:00 閉講の挨拶

公開教育講座委員会

北から・南から

同窓会のページ



## 日薬学術大会同窓会のお知らせ

日時 平成5年11月6日(土) 午後6時より  
場所 リーガロイヤルホテル小倉 093(521)2058  
詳細につきましては、現在福岡、佐賀、山口両支部と連絡をとり準備中でございますので、お知らせのみでご了承下さい。

## '93.3版名簿遅延について

44号でもお知らせ申し上げました様に会員名簿は予定を大巾に遅れ、各位には大変ご迷惑をかけていることを深くお詫び申し上げます。6月27日に最終校正を終え、9月末日迄の発行に向け、鋭意努力中でございます。今暫くお待ち頂きます様お願い申し上げます。

## 同窓会名簿販売について

'93.3版同窓会名簿は9月下旬に出来る予定です。購入ご希望の方は、

- (1) 直接同窓会事務室まで
- (2) 現金封筒にて同窓会まで
- (3) 同封振替用紙にてお申し込み下さい

価格 9,000円 (送料共)

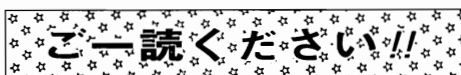
但し、本学職員又は年会費をご納入いただいている会員のご本人のみしか販売出来ません。

## ご注意

「同窓会名簿の類似品」が出ています

「大阪薬科大学同窓会名簿」(13,000円)

—人物名鑑社 03(3983)8691—is、本学同窓会及び同窓会名簿とはまったく関係がございません。くれぐれもご注意下さい。



平成4年度に母校の先生方が出版された著書は次のとおりです。

- ☆森 逸男, 千熊正彦, 他 著  
「わかりやすい分析化学入門(第2版)」  
第6章(森 逸男)  
第9章(千熊正彦) 広川書店(1992)
- ☆栗原拓史, 他  
「医薬品化学」 広川書店(1992)
- ☆赤木昌夫, 他  
「医薬化学 生物学への橋かけ」  
広川書店(1992)
- ☆草野源次郎, 他  
「毒性試験講座16」  
食品, 食品添加物「植物毒」 地人書館(1992)

- ☆草野源次郎, 他  
「宮城のきのこ」 河北新報社(1992)
- ☆小澤 貢, 他  
「薬用植物学 改訂第4版」 南江堂(1992)
- ☆小澤 貢, 他  
「漢方製剤の知識(IV)」 薬事新報社(1992)
- ☆掛見正郎, 森本一洋, 他  
「よくわかる生物薬剤学」  
第5章5・1, 第6章(掛見正郎)  
第2章2・4, 第5章5・2(森本一洋)  
広川書店(1992)
- ☆掛見正郎, 森本一洋, 他  
「例題+ポイント 薬剤学」 広川書店(1992)
- ☆玄番宗一, 他  
「腎臓学 Key Notes」 東京医学社(1992)
- ☆阿部 功, 他  
「世界都市・関西の構図」 白地社(1992)

## 同窓会費をお納め下さい

年会費は2,000円です。

今すぐ、どうぞ。

納入方法は

- ① 同封の振替用紙にて、本部へ納入。
- ② 学年幹事または支部長を経て納入。

のいずれかです。

本会は同窓会員の皆様の会費によって運営されています。ご理解とご協力をお願いいたします。

## 還付金をお役立て下さい

平成5年度分をすでに納入していただいた方は、宛名書に“納付済”又は“済”の印を押し、また本会報に同封の振替用紙には納付済みの印刷がしてあります。まだ納入いただけていない方は、この際は非ご送金いただきますようお願い申し上げます。

年会費のうち20%を還付金規程（前号参照）に従い各学年クラス会又は支部に還付し、活動費の一部に当てさせていただいております。よい企画を実現し、本会をより一層充実させるためにも、クラス会又は支部にもご理解とお力添えをお願い申し上げます。

納付済、未納の別は7月31日現在としておりますので、会費ご送金と行違いになりました方には何卒ご容赦下さいますようお願いいたします。

## 母校に同窓会事務室設置さる

本同窓会事務室は、現在母校の近くの賃貸マンション内にありますが、近日中に母校本館2階に移設されることになりました。

これは、母校理事長・大村栄之助先生、母校学長・久保田晴寿先生をはじめ、母校教員並びに職員のご理解により、同窓会からの母校施設の貸与の要望が7月末に認められ、実現の運びになりました。

今後、より母校に密接した同窓会の活動拠点として、また同窓会への情報発信基地として、本事務室がより一層機能できると思います。

住所変更等のご連絡はファクシミリにてお知らせ下さい。(24時間自動)

F A X 番号 0723(37)2888



\* 自民党を野党にしての、細川新総理誕生という歴史的な年。我が同窓会も粟田広報委員長をトップに、新布陣は、これから三年間会員の皆様に愛され、

心待ちにされるような同窓会誌の発行をと、決意も新たに頑張っています。

\* 来年から、切手代も62円が90円にアップされるのと、せめて表紙だけでもカラーにしたい、早速予算と相談です。しかし、広範な分野にわたっての学内ニュース、各界各層で活躍される同窓生の動向、身近かで役立つ多彩な記事など、魅力ある紙面づくりをいたく思っています。どしどし、建設的な意見をお聞かせください。

\* 数字、カタカナ、外国語……なにかと横書きの記

事のほうが書きやすく、読みやすくなってきました。時代の流れでしょうか、今回から横書きです、ご感想をどうぞ!

\* 紙面の都合でクラス会だよりは次号になります。お詫びしますとともに、46号、乞うご期待!!

\* と、えらそうに書き連ねましても、素人の集まりです。暖かい目でお育て下さいますように。

(K・F)

## 大阪薬科大学同窓会

〒580 松原市河合2-10-65  
大阪薬科大学内

印刷 (有)盛進堂印刷所 0726(75)0126